

## 「種山が原は今⑩」

パソコン故障でメンテナンス中に種山ヶ原はすっかり初冬に入ってしまいました。落葉松はすっかり黄色から茶色に変わり、熊の姿はもう見えません。雄鹿たちの戦いはまだ続いているようです。

私は相も変わらず笹に覆われ隠れているレンゲツツジの幼木探しに取り組んでいます。笹の下はツツジは伸びることもできずにいるのに、陽を浴びている幼木は15 cm程でもきちんと花芽が付き、春を待っているのです。今、その幼木に草刈りの時に刈られないように印のついた支柱を傍に立てていますが、物見山駐車場の土手にはもう150本以上の目印の支柱が立っています。5年後レンゲツツジが一面に咲いてくれることを願いながらみんなで頑張っています。

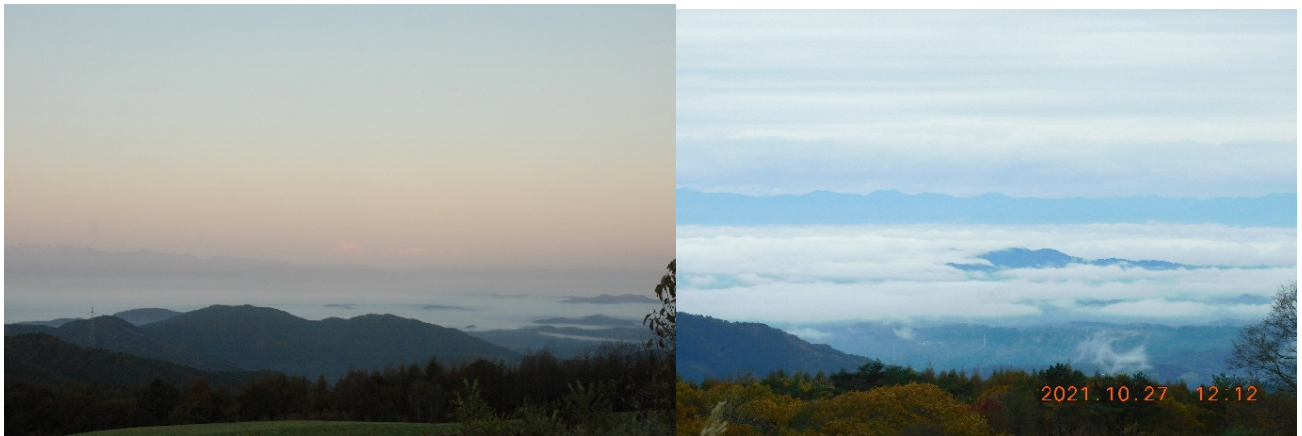
種山ヶ原の朝を撮ろうと出かけています。いつももう一人写真を撮りに来る人がいます。鹿ワナを点検に来る人もいます。みんな前を向いて生きているんだ。

<朝焼け>



アメダスも朝日を浴びて

種山ヶ原からの雲海



詩碑「牧歌」からの雲海

星座の森キャンプ場 11・6





賢治の森・遊歩道の草刈り 平均年齢75歳以上だ



旧五輪街道を守っている二人

雄鹿が凛々しく 老人も元気に



現在の旧五輪街道は、砂防ダムを造る時にできた作業道と一部同じになっており、現在調査中。来年度には表示板を立てる予定です。

## 「種山ヶ原」

大正14年7月19日（人首町を2度目に訪れた次の年の作品？）

真っ青に朝日が融けて

この山上の野原には

濃艶な紫いろの

アイリスの花がいちめん

靴はもう露でぐしゃぐしゃ

図版のけいも青く流れる

ところがどうもわたくしは

みちをちがえてゐるらしい

ここには谷がある筈なのに

こんなうつくしい広っぱが

きらきら光って出てきてゐる

小鳥のプロペラが

三べんもつゞけて立った

さっきの霧のかかった尾根は

たしかに地図のこの尾根だ

融け残ったパラフキンの霧が

底によどんでゐた、谷は、

たしかに地図のこの谷なのに

こゝでは尾根が消えてゐる

どこからか葡萄のかをりがながれてくる

あゝ栗の花

向ふの青い草地のはてに

月光いろに盛りあがる

幾百本の年経た栗の梢から

風にとかされきれいなかげろふになって

いくすぢもいくすぢも

こゝらを東へ通ってゐるのだ

アイリスの群生を種山ヶ原で見つけるのは難しい。物見山や賢治の森にいくつか咲いているぐらいです。来年、星座の森の下の湿地を調査してみます

うっすらと岩手山

秋の早池峰山







賢治の森からの物見山



星座の森の「風の又三郎」

牧草収穫風景      年 2 回のにぎやかな収穫風景      見ていると実に面白い。必見です！  
 しかし、ここにも獣害があるらしい。夜になると牧草地は鹿の群れでいっぱいだそうだ。牧草が例年の 3 割減だとか。



「星座の森」の手前に落葉松林がある。初夏には春ゼミの大合唱を聴くことができる。秋には葉が落ち茶色の道が出現するのだが、なかなかうまい具合にはいかない。今朝も車が通らないうちにといい5時過ぎに出かけた。やはりまだ暗い。しばらく待つとようやく見えてきた。しかし、想像していた絵ではなかった。天気を見ながらまた来ようと思う。



### 【雑 感】

種山ヶ原は、5億年以上前地殻変動によって海から隆起した北上山地にあり、海の生物の化石があるはずなのだがなかなか見つからない。何故だろう？しかし、色んな生き物があり、様々な営みをしています。じっと観察していると、それぞれの違った生き方で興味深い。そして、高原だけに空が広い。

種山ヶ原を訪れる人は、そんな広い空間を求めてきているのかもしれない。テントの前で静かに焚火をしている人を見ると、火を見ながら自分を見つめ直しているのだろうか。それとも炎に魅せられているのだろうか。安らいでほしい。

宮沢賢治が学生時代に地質調査で訪れて以来、度々訪ねては多くの作品を書き残しているここ種山ヶ原を多くの人に訪ねて欲しい。高原の風、雲の流れ、色んな草花、鳥のさえずりや飛ぶ姿に心躍らせ大きく深呼吸して！

私の願いの一つが、いつか種山ヶ原に「幸せと平和の鐘」を作ること。宮沢賢治が「農民芸術概論綱要」の中で「世界がぜんたい幸福にならないうちは個人の幸福はあり得ない」と語り、ユネスコ憲章前文には「戦争は人の心の中で生まれるものだから人の心に平和の砦を築かなければならない」と述べられている。この二つの精神を鐘の音「種山ヶ原の心」にのせて人々に届けたい。